

第1分科会 「教育課程」 (担当 宇部地区 提案者 川上中学校長 豊島 正行)

【研究協議題】 「生きる力」を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善
～コミュニティ・スクールの機能を生かした取組～

【解説】

急速な社会の変化に伴い、子どもたちの規範意識や社会性の低下、生活習慣の乱れによる学習意欲の低下など多くの課題を抱えている。こうしたことを背景に、いじめや不登校など様々な問題が起きている。これらの問題を解決するために子どもたちの「生きる力」の育成は急務であり、そのため保護者を含めた地域社会とのつながりや小中連携を中心とした教育課程の編成は重要性を増している。

当研究は今年度で2年目となり、昨年度の成果と課題を踏まえ研究を進める必要がある。昨年度の実施による成果としては、地域連携による生徒の地域への関心の高揚や地域行事への参加の増加、そのことによる自己肯定感の高まりがみられた。さらに、教職員のコミュニティ・スクールの取組への能動的な参加、教育課程を含む小中連携の深まりが見られるようになった。課題としては、教育課程における小中連携した取組の充実や新しい教育課程への対応などがあげられた。

今年度は、次期学習指導要領も視野に入れ、「生きる力」を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善について、校長としての役割や課題をコミュニティ・スクールの機能を活用した取組や小中連携をふまえた9年間のスパンでの研究を深めたい。

【研究の視点】

- コミュニティ・スクールの機能を活用した教育課程の編成・実施・評価・改善
- 小中連携による教育課程の編成・実施・評価・改善

【研究協議題】 生涯にわたり学習する基盤を培う「確かな学力」の定着と向上
～これからの社会を生き抜く力を培う学習指導～

【解説】

平成29年3月に公示された次期学習指導要領では、生徒の「生きる力」を育むために、学校の教育活動を進めるに当たって、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する」ことが示されている。

また、「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得」や「課題解決のための思考力、判断力、表現力等や主体的に学習に取り組む態度の育成」、「個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実」も生徒が身に付けるべき課題として挙げられている。

これまでも学校現場では、PDCAサイクルに基づく授業改善による学力向上の取組や学ぶ意欲を高めるための授業評価の工夫・改善に取り組んできた。少子高齢化や高度情報化、グローバル化に一層拍車がかかる今日において、これからの社会を生き抜く力を、生徒がどのように獲得していくかは喫緊の教育課題である。

本市は小規模校から大規模校までさまざまな規模の学校があり、学習環境や教育課題もさまざまである。次期学習指導要領が目指す「生きる力」の育成を念頭に置きながら、校長としての働きかけをふまえて研究を深めたいと考えている。

【研究の視点】

- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善の取組
- 基礎的・基本的な知識、技能の定着を図る学習指導の取組
- 学びに向かう力を高める学習指導の取組
- CSと連携した学習指導の取組 他

【研究協議題】 心に響き、心を耕す道徳教育の充実

～カリキュラム・マネジメントの視点から～

【解説】

平成31年度から実施される「特別の教科 道徳」(道徳科)に向けて、各支部・各学校で準備が進められているところだが、そもそも道徳の時間が「教科」となったのは、言うまでもなく道徳教育のさらなる充実を目指してのことである。

そこで、岩国市・和木町校長会としては、今一度、「道徳教育の充実」というゴールに向けて、思いを新たに、校長として何をすべきかという視点で研修に取り組んでいきたいと思う。

その際、リーダーシップを発揮し組織として学校をまとめていく立場の校長として、道徳におけるカリキュラム・マネジメントは重要である。本校長会は、カリキュラム・マネジメントの視点で道徳教育の充実を図り、各学校で実施することで見えてくる成果と課題についても検証していきたい。

今年度は、「道徳科」に係る変更点と準備すべきことを確認するとともに、道徳教育推進教師を中心とした組織体制を見直し、授業の質の向上に取り組むと考えている。

【研究の視点】

- 「特別の教科 道徳」(道徳科)の実施で何が変わり、何を準備すればよいのか。
- 道徳教育充実のために、校長として何をすべきか。
- カリキュラム・マネジメントの視点で取り組んだ成果と課題

【研究協議題】 健やかな身体の育成と体力の向上を図る教育の充実

【解説】

これからの社会をたくましく生き抜く生徒を育てるために、健やかな身体の育成と体力の向上を図ることは、教育の重要な課題と言ってよい。この健康や体力は、人間の活動の源であり、意欲や気力といった精神面にも大きくかかわっており、本県教育が育みたい「力」や「心」として3つのうちの1つである「生き抜く力」を支える重要な要素である。

新体力テストの結果から、子どもたちの体力低下が課題となっており、本県においても、健やかな身体の育成と体力の向上は喫緊の教育課題となっている。

防府市校長会としては、これまでの研究協議題を踏襲し、平成27年度と28年度の2年間に渡って取り組まれた山口市校長会での成果と課題を引き継ぎながら、「健康教育」の推進について研究を進めていきたいと考えている。研究を推進していくにあたっては、コミュニティ・スクールの良さを活かした人材活用の在り方や、地域協育ネットを活用した家庭や地域・関係機関との連携における校長としてのリーダーシップや役割についても提案したいと考えている。

【研究の視点】

- 体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の取組
- 体力の向上や健康の保持増進を図る小中連携の取組
- 体力の向上や健康の保持増進を図る家庭や地域・関係機関との連携

【研究協議題】 未来を切り拓くためのキャリア教育の視点に立った進路指導の充実
～小中連携カリキュラムの作成をとおして～

【解説】

グローバル化や情報化とともに仕事の細分化、雇用の多様化など急激に変化する現代社会において、夢や目標をもち自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成するキャリア教育は極めて重要である。しかし学校では、職場体験学習などの体験活動だけを重要視したり、職業講話や職業調べなどの実施でキャリア教育を行ったとみなしたりする教員が多い。また、学年によって受け止め方や実践内容・水準にもばらつきが見られる。このような中、すべての教育活動で系統的・計画的なキャリア教育を推進するためには、校長として明確な視点や方向性を示すことが重要である。

下関市では、「やまぐち型地域連携教育推進事業」として、社会総掛かりで小中9年間の子供たちの学びや育ちを支援する取組を年次的に進めており、今年度ですべての小中学校がモデル校区の指定を受けることになる。これを機に、キャリア教育における小中連携カリキュラムの確立を軸に研究を進めることとした。また、下関市産業立地・就業支援課も、今年度から「しものせき 未来 創造 job フェア」の事業を立ちあげており、これら行政機関との連携も図っていきたい。

【研究の視点】

- 小学校と連続性をもったキャリア教育の推進
- キャリア教育の視点を明確にした授業づくり
- 学校環境を生かした特色ある教育活動の展開

第6分科会 「生徒指導」 (担当 光地区 提案者 大和中学校長 弘実 邦雄)

【研究協議題】 自己肯定感や達成感のある豊かな学校生活を築く指導の充実

【解説】

光市校長会では、光市が目指す学校像としての「連携・協働を重視した学校づくり」を生かした生徒指導に取り組んでいる。各学校では、生徒指導の3機能を生かした開発的・予防的生徒指導を進めるとともに、家庭・地域・関係機関との連携を密にし協働で取り組むことにより、学校だけでは経験できない自己肯定感や達成感が感じられる体験を通して、自己実現を図っていくための自己指導能力を育成したいと考えている。

昨年度まで周南市が取り組まれたように、光市においても「授業づくり」は、開発的・予防的な生徒指導の基盤であると考えるとともに、生徒が安心して生活し、授業をうけることができる学級づくりなどの「集団づくり」についても各学校の状況を踏まえた取組について研究したい。さらに、小中連携や県内でも先進的な取組が行われているコミュニティ・スクールを活用した地域とともにある活動や光市がこれまで培ってきた市長部局福祉関係課との連携・情報交換など、広がりがあり生徒や家庭に届いて機能する「連携づくり」についても研究を進めたい。

【研究の視点】

- 互いの意見を尊重し、主体的に学習できる授業づくり
- 誰もが安心して所属でき、達成感を感じる活動ができる集団づくり
- 小中、CS、関係機関とのつながりが機能する連携づくり

【研究協議題】 質の高い教育を実現するための人材育成の推進
～外の風によって教師を育てる取組～

【解説】

昨年度、市校長会では人材育成の推進に向けて、これまでの取組の成果と課題について調査・分析を行った。これによると校内研修など校内での人材育成は各校で工夫がされ、一定の成果を上げていることが分かった。しかし、今後ますます複雑・多様化する教育課題に対応できる教職員を育成するためには、校内だけの人材育成では限界があり、外部人材などを活用したいいわゆる『外の風』によって教師を育てる工夫が、今後重要になってくると考えた。調査結果からも、『外の風』が有効に活用できていない状況が確認できた。そこで、この『外の風』を校長の働きかけにより効果的に活用することと、更に校長として「もう一步踏み込んだ働きかけ」を仕組んでいくことで人材育成を図る研究を進めていく。

研究2年目となる29年度は、各校での取組を踏まえて、「成果と課題の検証による今後の人材育成のあり方」を提案したい。

【研究の視点】

- 外の風によって教師を育てる具体的実践例
- 校長として「もう一步踏み込んだ働きかけ」の工夫
- 教職員の資質向上と意識の変容

第8分科会 「学校経営」 (担当 大島地区 提案者 久賀中学校長 重原 冷子)

【研究協議題】 時代の要請に応える学校経営の充実

～学校・家庭・地域の連携で子どもたちの育ちを応援するCS運営～

【解説】

昨年度、第8分科会大島地区の発表では、「時代の要請に応える学校経営の充実」として、「学校・家庭・地域の連携で子どもたちの育ちを応援するコミュニティ・スクール運営」について、研究してきた。研究の中で明らかになってきたことは、それぞれの中学校区に地域の特色があり、そこで培われてきた文化や伝統、教育に対する考え方など微妙に違っており、各校とも、それぞれ地域の特色を有効に取り入れ、それを利用して、よりよい学校づくりに取り組んでいる実態をまとめた。各学校が抱えている課題も違い、それを解決・改善するために、それぞれの地域の強みを生かし、各学校で工夫している現状を校長としての視点から研究した。

そこで、2年目となる今年度は、もう一步進んで、校長として、各校の実態に基づき、課題解決のためにCS運営をどう機能させ、どのような効果を得ているかを各校の実践の中からまとめていくこととした。各校のCS運営におけるPDCAのマネジメントサイクルの方法、それをどう学校経営に生かしているか、より質の高い学校経営に向けどう動いたか、各校の具体的実践についてまとめ、共通項的なポイントを探ることとした。

【研究の視点】

- PDCAマネジメントサイクルの方法
- PDCAマネジメントサイクルを学校経営に生かす方法
- 学校の課題改善に向けた具体的実践